

神社と四季「初日の出」



新年を迎へ謹みて皇統の弥栄と各御社頭の御栄を寿ぎ奉ります。

一昨年より続く新型コロナウィルス感染症予防に万全を尽くし神明奉仕に日々精励を重ねられ新春をお迎への事と存じ上げ弛まぬご努力に感謝申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、全国各地の総代の皆さまをお迎へし盛大に開催すべく準備を進めて参りました全国大会が感染症の猛威により中止され、県神社関係者大会も規模を大幅に縮小して開催する予定でしたが感染拡大に伴い遺憾ながら急遽取り止めとなりました。一年続けて伝統の神事や諸行事が中止されるなど深刻な影響を及ぼしましたが、信仰の護持、伝統行事の継承の観点からも感染症対策を徹底して祭礼を奉仕された神社も見受けられ、ワクチンの接種、経口薬の開発と多くの人々のご尽力により、漸く収束への兆しが見えて参りましたが決して油断できない状況です。

疫病を恐れ疫神の侵入を防ぐため村々の境に塞の神を祀り、夏越しの祓いや疫病退散を祈る祭祀など、目に見へぬものへの畏れ、敬い慎む心こそ我々の信仰であり先祖より子孫へと守り伝へて行くべき文化です。

地方の過疎化、生活様式の変化による祭祀の衰微、神や祖先への感謝の欠如など日本人としての精神の衰退により、神宮大麻奉斎家庭が減少するなど、斯界を取り巻く環境は弱体化の一途を辿り、祖先より受け継いだ伝統が廃れるか否かの瀬戸際を迎へております。

今後とも神社を中心とした伝統文化の護持に努力を重ねる所存です。何卒、神社庁の諸活動に尚一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げご挨拶いたします。



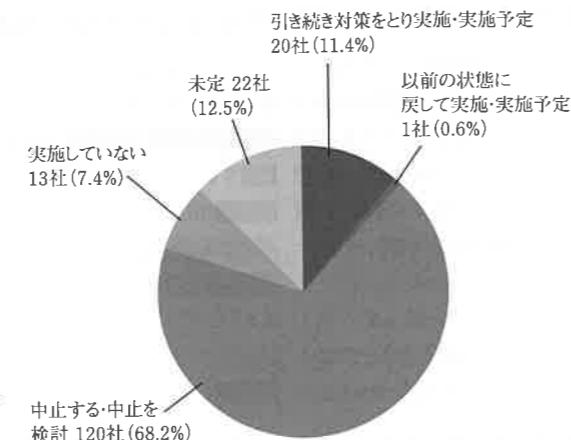
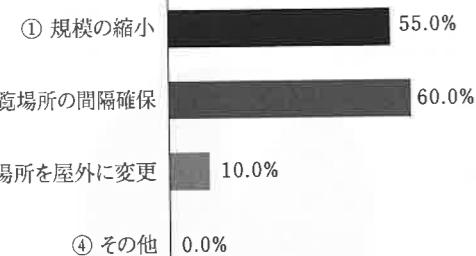
謹賀新年

広島県神社庁長
吉川通泰

非公表

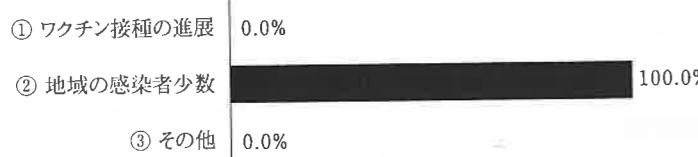
非公表

(ア) 対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)



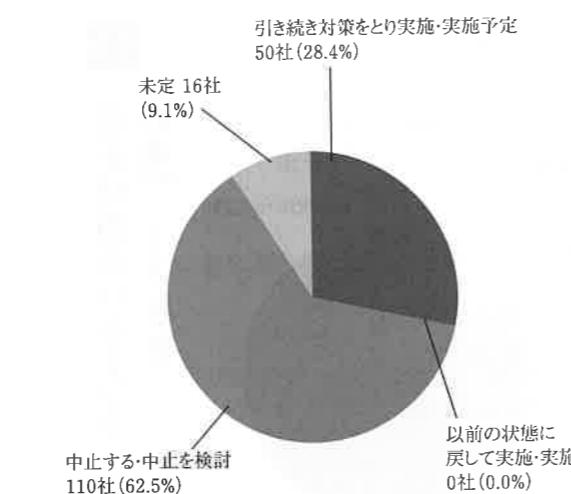
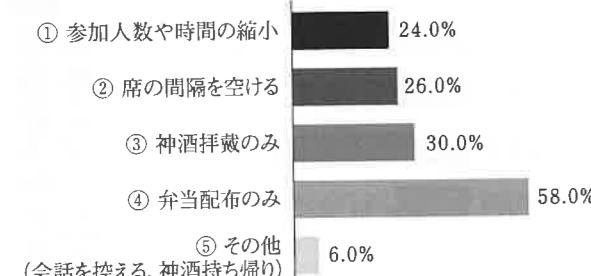
4 神樂など奉納行事の対応について【例祭】

(イ) 以前の状態に戻して実施・実施予定の理由(複数回答)



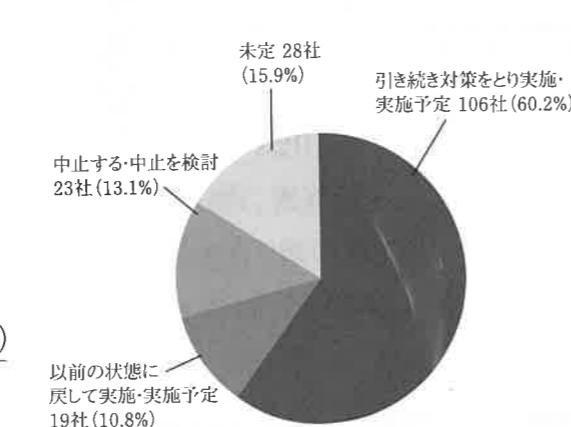
神楽などの奉納行事についても、全体の68.2%の神社が中止または中止検討と回答。(昨年は63.5%)一方、実施予定の12.0%に地域的な偏りはみられない。
中止の理由は、舞台や観覧場所が密になり感染リスクが高まるごとに加えて、長引くコロナ禍で舞手の練習不足や高齢化などがあげられる。

(ア) 対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)



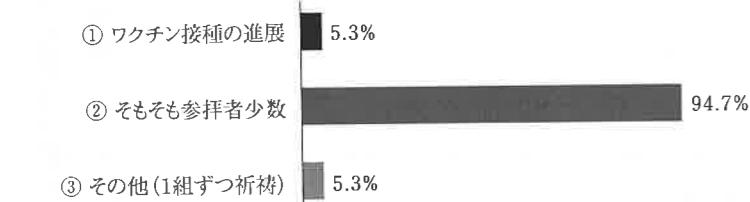
5 直会の対応について【例祭】

(ア) 対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)



6 七五三の対応について【例祭】

(イ) 以前の状態に戻して実施・実施予定の理由(複数回答)



子供への感染が増加している変異株の拡大もあり、全体の6割の神社が感染防止対応を実施すると回答。具体的には、拜殿の人数制限や予約制の導入、初夏から七五三の受付をはじめた神社もあった。
一方、そもそも参拝者が少ないとして18社はコロナ前と同じ対応で実施予定。また全体の13.1%、23社は七五三の受付を中止すると答えた。

第2回 県内神社の感染症対策に関する緊急アンケート報告書
広島県神社庁教化委員会

●はじめに

昨年から続く新型コロナウイルス感染症による禍乱は終息が見えず、感染予防の切り札として登場したワクチンの接種が進む一方で、感染力の強い変異ウイルスの影響から広島県でもお盆以降に感染者が爆発的に増加し、三度目となる緊急事態宣言が発令されました。斯界においても秋の祭礼をはじめ、七五三詣、正月行事など神社に人が集まる祭典や行事が目白押して、神職の皆様のご苦労は如何ばかりかと推察申し上げます。

感染予防対策も二年目となり、ここで各社が行ってきた対応策や反省点などを取りまとめ、情報を共有して、神社の護持運営の参考にしていきたいと存じます。

本務神社宮司の皆様には、お忙しい中、短い間にアンケートにお答えいただき誠に有難うございました。また設問不足が一部にありました点をお許しください。

今回の調査では、神輿などの神賀行事は全体の59.7%(昨年61.

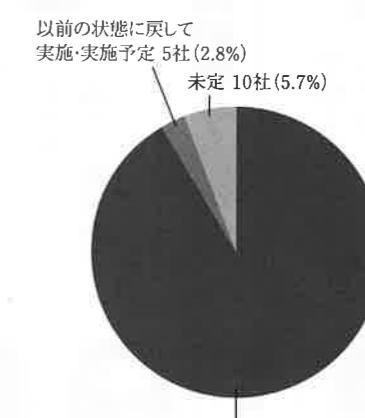
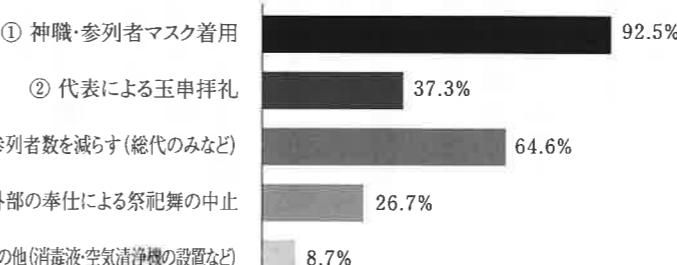
5%)、神樂など奉納行事も68.2%(昨年63.5%)、そして例祭の直会も62.5%(昨年42.0%)がそれぞれ中止する見通しで、昨年の調査同様に厳しい数字となっています。

このところの過疎化や少子高齢化に加えて、今回の感染症の影響が長引くことで神社が被る人的・経済的なダメージは大きく、神社存立の基盤をも揺るがしかねない事態に宮司の多くから不安や懸念の声が寄せられました。

神社本来の賑わいを取り戻し、社頭に人々が安心して集まる世の中が戻ってくる日まで、ワクチンの接種をはじめ、皆様から寄せられたアンケートにもありますように、マスクの着用や室内の換気、神事や行事の人数制限など基本的な感染対策を徹底して、これからも神社と参拝者を守っていきたいと思います。

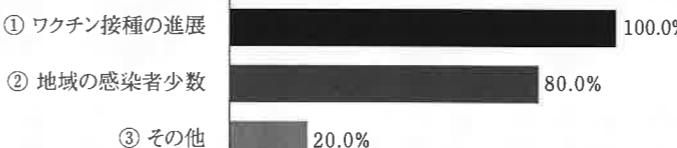
教化委員長 櫻井建弥

(ア) 引き続き対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)



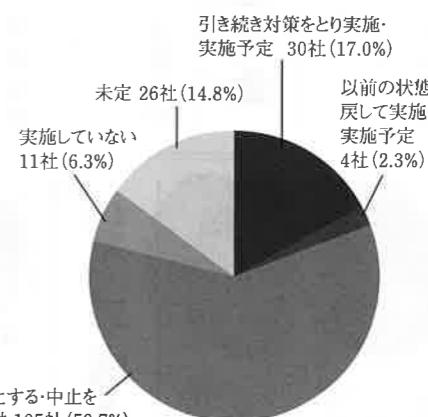
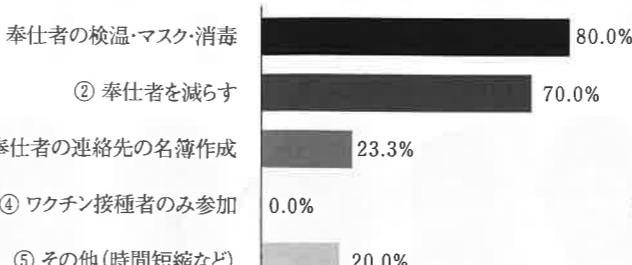
2 神前祭典について【例祭】

(イ) 以前の状態に戻して実施・実施予定の理由(複数回答)



9割を超える神社で今年も対策をとって例祭を実施する。昨年の調査と比べて神職・参列者ともにマスク着用の重要性をあげた宮司が大幅に增加了。

(ア) 引き続き対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)



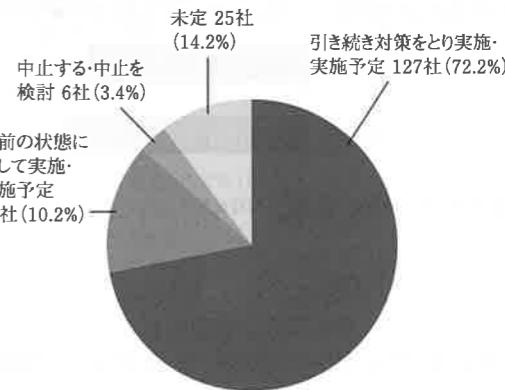
3 神輿渡御・獅子舞・稚児行列などの対応について【例祭】

11. 神社の状況や過去の対策の反省点など。(抜粋)

- 恒例祭への氏子参拝者が半減となった。特に高齢者の参拝が激減した。田舎では高齢者からお供えが多かったが、現時点ではその影響が大きい。都市部に就職した若者達の帰省が極めて少なくて苦慮している。
- 高齢化が急速に進んで老人世帯も急激に減少したところにコロナ禍のために、子・孫世代の里帰りもできなくなり、神社への参詣も減少し財政的に破綻状況です。
- 過疎地域の神社で、2年続けて神輿・神樂を中止したが、氏子が神社に集うことがなくなりました。花料であつた収入も無いのでしんどい。
- 例祭がこれまで通りできない年が続くと「故郷のお宮のお祭りに参加しよう」という意識が薄らぐことを懸念している。初詣等も同じように思える。
- コロナ対策のため、直会を中止しており、氏子さんと直接お話しをする機会が少なくなった事が残念です。
- 神を崇め、御神徳を仰ぎ、氏子一人ひとりが氣力を集め、地域社会全体の活性化をめざす神道の根本をゆるがす状況に困惑。疫病対策に全力で取り組み、一日も早い退散を願うばかりだが、現状は真逆。このままでは氏子、崇敬者の神社離れ、結果として将来的には敬神の念が薄れなければ良いが…を憂慮する次第。
- 参拝者の中で密と感じるもの(正月三が日、昇殿祈祷)に関しては、どのように主催者側が感染対策をとり、それをアピールしても人の集まりは激減している。
- コロナ禍も早2年。今年度神社において以前の状態の実施をしないと来年度から祭典費を集める事が困難になる。
- 今年はコロナ禍のみならず、8月の集中豪雨の影響が非常に強く、国道・県道・市道・田畠の損壊も多く、稲刈りも遅れ、祭りどころはないといった状況である。
- ある程度の人が集まらないと例祭の準備が出来ないので、どんどん簡素化してしまい、伝統文化が伝わらなくなるのではないかと危惧しています。
- 昨年につづき、神輿・神祇など伝統行事が中止となり継承がますます難しくなる。
- 神賑行事の神祇と神輿渡御はコロナで中断している現状である。伝統を継承する上で必ず再開しなくてはならないが、少子高齢化の中で賑やかさが復活するか不安である。
- 報道関係で全国一様に「分散参拝」「参拝自粛」が叫ばれると、当社のような田舎の弱小神社にあっては参拝者が皆無になり祈祷料・授与品料が激減した。大都会の神社を一様に報道されると困ります。
- 何も言わずとも参拝の方々がマスク着用と消毒液使用を心がけており有り難いです。
- 「コロナのため」という言葉で簡単に祭りを中止にして、工夫すればできる事まで止めてしまう例が多い。
- 「コロナ」の一言で思考停止に陥っている。結果、同じ「中止」となったとしてもそれに至る過程を経ないと展望が見えないし次へのステップに繋がらない。
- とにかく人流を分散、対面での振る舞い、換気を徹底する他、日々の当社の奉仕者、宮司等の行動をシビアに見直して行くことが大事。

(ア) 引き続き対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)

- | | |
|--------------------------|-------|
| ① 早期の受付開始(幸先詣など) | 20.5% |
| ② 予約制の導入 | 20.5% |
| ③ 参拝殿の人数制限 | 55.1% |
| ④ 臨時受付所・授与所設置 | 9.4% |
| ⑤ 授与品の見本(看板)設置 | 16.5% |
| ⑥ 神酒など振舞いの中止 | 67.7% |
| ⑦ 人流の一方通行化 | 29.9% |
| ⑧ 郵送祈祷・授与品の導入 | 3.9% |
| ⑨ 電子マネーの導入 | 1.6% |
| ⑩ その他(マスク着用・消毒液設置・換気の徹底) | 17.3% |



(イ) 以前の状態に戻して実施・実施予定の理由(複数回答)

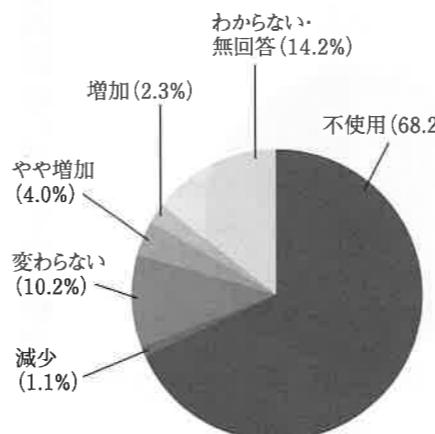
- | | |
|-------------|-------|
| ① ワクチン接種の進展 | 11.1% |
| ② そもそも参拝者少数 | 94.4% |
| ③ その他 | 0.0% |

安心で安全な初詣は神社運営にとって極めて重要な課題である。7割を超える神社が夏の時点で対策を検討をはじめている。(昨年は49.0%) 内容は、予約制の導入や早期の受付開始(幸先詣など)のような分散参拝対策、拝殿の人数制限や人流の一方通行化などの三密防止対策などで、郵送祈祷・授与品の導入が5社、電子マネー導入が4社あった。
一方、コロナ前と同じ対応で初詣を実施すると答えた神社のほとんどが、「そもそも参拝者が少ないので」と理由を説明している。

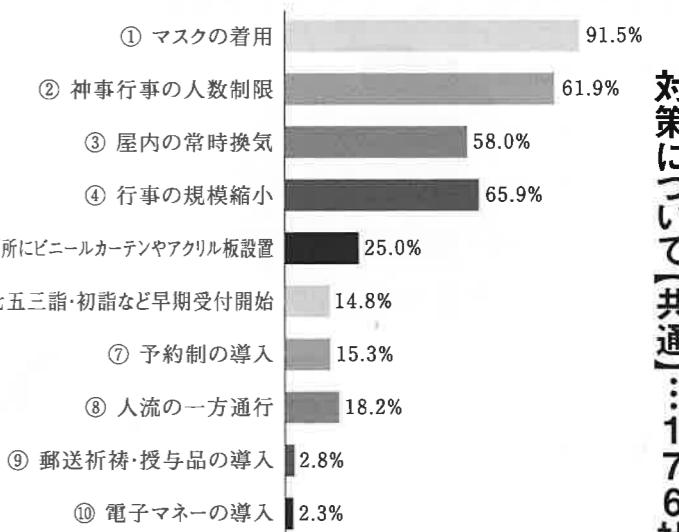
10

【共通】：176社

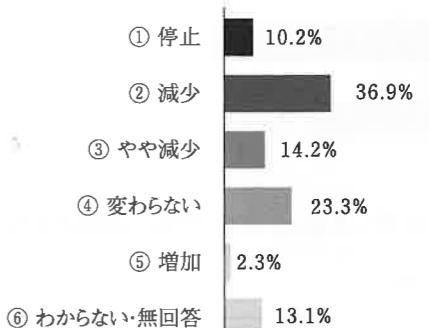
コロナ禍におけるオンラインの活用について



テレワークやオンライン授業、リモート会議などオンラインを活用した活動が推奨される中、神社界ではパソコンなどの扱いに不慣れな神職も多く、その活用に広がりはみられない。



感染症対策も二年目となり、これまでの経験から、マスクの着用や屋内の換気、神事や行事の人数制限や規模の縮小など基本的な感染対策を徹底していくことが、感染予防には大切であることを示された。



長引くコロナ禍にあって、広島県でも三度の緊急事態宣言が発出され、外出の自粛やイベントの中止、施設の使用制限など様々な活動が停滞している。各社の教化活動においても、全体の61.3%の神社で停止、減少、やや減少と回答した。

7

初詣の対応について【初詣】

8

感染症予防に特に有効と思われる対策について【共通】：176社

9

コロナ禍における教化活動の変化について【共通】：176社

例年通りの合宿であれば、毎晩祭式の練習ができましたが、分割開催のために習熟が不利という声もありました。しかし私はそうは思いませんでした。毎日帰宅し翌日登庁するまでの時間に復習ができ、甲と乙、乙と丙の間の期間も十数日ほど空いていたため、気分一新しながら休憩時間を取ることができました。

特に世間一般で馴染みの薄いものがあり、戸惑いもありました。例えば、朝拝や夕拝、国旗掲揚や昼食にしても順序や作法があり、そういうた



■ 嶽神社

福宜 中原 健

直階検定講習会を受講して

以前から前の宮司や今の宮司が神明奉仕する姿を見て、素晴らしい職業であり、また大変な仕事であることも判り、私も神主の資格を取得して、少しでも手伝うことができればと思い、講習会を受講しました。

この講習会に関しては通常一ヶ月程の合宿で行われるところ、コロナ禍のために三ヶ月に亘り甲乙丙の分割開催となりました。国旗掲揚、朝拝、授業、国旗降納、夕拝が日々の課程として行われ、授業は祭式を中心に祝詞、国語、歴史、宮中祭祀、古事記など神職に関わる基礎知識から一般教養までご教授いただきました。

受講していることを学びましたが、特に印象に残つているのが敬神生活の綱領です。全てのものへの感謝を忘れず、清く明るく誠実に自分の務めを果たす。世のため人のために奉仕し秩序ある世の中をつくる。神の御心を受け取つて皆で協力しながら共生共榮を祈る。神職としての心構えや人としての道を教わりました。

最終日の奉告祭では受講生二十名のうち十名が所役を担うとして作法や祝詞奏上が上手くできるか、失敗したらどうしようという不安もありましたが、練習するうちに失敗を恐れるより奉仕する気持ちが大切だと思うようになり、不思議と心地良い緊張感のまま講習会を終えて、講師の先生方に感謝しましたとともに、目的を一つにして出会つた仲間たちと協力しながら基礎からしっかりと学べたこと、心構えや目標ができ、今後の敬神生活、神明奉仕する上で大変良い経験をさせていただきました。またコロナの感染者が増え、途中で講習会が中止になつたらどうしようかと思いましたが、最後まで開催していただいたのは本当に有難い事でした。

今は佐伯大竹支部に属する嶽神社の福宜を拝命し神勤に励んでいますが、振り返れば神主になるのは決して簡単なことではなく、難関難問を努力し乗り越えてようやく認められるものであり、それからいよいよ神主としてのスタートラインに立つということも多く判りました。今後、神職として神の恵みと祖先の恩とに感謝し、出来るだけ多くの氏子や崇敬者をはじめ、関わる方々と協力しながら共に歩んでいきたいと思っております。

- 対策を取りつつも実施できることが体験的に分かってきて、当神社の規模であれば七五三や初詣はご参拝の方々に満足頂ける形で今年も出来そうだと思っています。
- 昨年度、正月前後の分散参拝の影響で参拝者を大きく減らしました。本庁や神社庁の指導や研修のおかげで感染症対策ができたように思います、職員の対策も緩んできていますので、昨年の対策を今一度見直し、対策を徹底したいと思います。
- 昨年は想定外の事態に大半の祭礼行事が中止の対応が取られたが、今年は昨年の経験を踏まえ、祭典規模の縮小などの対応がなされています。それぞれの地区において制約の中により良い対応を図ろうと努めておられる様子が伺えました。
- 予想以上に初詣の分散参拝が浸透し、12月～2月の授与所人数の再検討が必要。
- 「率先詣」のような不適当な風習は容認すべきではない
- 神社運営について、神社本庁の今までの指導が覆され困惑する。神札護符の通販やネットでの祈祷、手水の省略や正月率先詣にも驚いている。
- 県北では感染者も少なく、どちらかと言えば危機感が薄いように見える。例年と変わらず生活し祭りを行ったという話も聞く。田舎だから大丈夫という考えは捨て、もう少しそれぞれが危機感を持って欲しい。
- ワクチン接種者が増加しつつあるのに、コロナ患者が増えている現実。何でこんなことになっているのか。先行きの見えない不安でいっぱい。
- 1年ぐらいで落ち着くと思われたが状況があまり変わらないことで、今後の変化が予想できず不安を覚える。

専門家からの提言

小職、医師で肺障害(肺傷害による肺の機能障害)の専門家です。その成果により、日本呼吸器学会会長(平成26年度)・日本内科学会会長(平成30年度)に選出されました。さて、まず、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の主たる重症化病態は肺障害であることを承知置きください。

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は、今後100年間以上も、人間を苦しめる可能性が高いことを前提として、神社奉務にあたるべきと考えています。

SARS-CoV-2は2002年に発生したSARSと約80%の遺伝子が同じです。SARSは非常に恐ろしいウイルスでしたが、何故か2003年の夏にはこの世から消えましたので、世界中が安心しました。ところが、SARS-CoV-2は既に世界中に蔓延し、もはやそのような甘い期待はできないのです。むしろ、感染力の増大、致死率(罹患者のうち死亡率のこと)の悪化をもたらす変異が続いている状態です。

インフルエンザは2000年以上も前から存在しましたが、特異的治療薬により致死率を低下させることに成功しました。COVID-19の現在の致死率は、インフルエンザの約100倍ですが、これにも簡便な経口薬・吸入薬などの特異的治療薬が開発されれば、インフルエンザと似た程度の恐ろしさにはなるかもしれません。

新型コロナウイルスの厄介なところは、発症2日前から発症後1週間くらいの間、濃厚接触者に感染させます。しかも、軽症者ほど感染力が強いので、何時、何処で、誰が感染するか分からないのです。従って、①ワクチンを接種する②ソーシャルディスタンス③十分な換気(気流制御)④不織布マスクを使用する。当面の間は、これらを国民の皆さまが実行していくしかないのでしょう。

コロナのパンデミックは、野球で言えば、守備がずっと続いているような状況ですが、早く攻撃に回りたいものです。しかし、まだ攻撃側になるには早すぎると考えます。

広島都市学園大学 学長 土井泉神社 宮司 河野修興

「ご批判等あるかと存じますが、ご容赦の上ご覧ください。」

「現在の神社界の関心事を何か庁報の記事にできないか。」

「コロナ禍で社会情勢が一変したが、神社参拝に関しては今後どう変わっていくのか。幸先詣（十二月に神社に参拝して新年の御札・御守や縁起物の授与をする等）を昨年推奨した神社もあつた。」

「コロナウイルス感染予防のため手水の柄杓を撤去したり、鈴緒を外している神社もあるが今後も継続するのか。」

「先日の教化委員会のアンケートにも、これらのコロナ対応について多くの意見や批判があつた。それぞれ特に都市部と地方の神社では事情

神社界が抱える諸問題についての検討

協力を賜り篤く御礼申し上げます。

当会では神社や神道に関するどのような記事を掲載すべきか日々話し合いをしておりますが、昨今のコロナ禍で大きく社会情勢が変化する状況で発生している諸問題に関して特に議論の時間を費やすております。しかし、これらの問題に関しては賛否両論ある内容が多く、公正・公平性を考えると一つ一つを記事にすることが難しいとの判断になってしまいます。これらの問題を皆様にどうにか伝えることができないか検討した結果、当会で議論したありのままの姿を会話形式で掲載し、問題提起する形であれば記事にすることが可能ではないのかという結論に至りました。大変繊細な内容も含まれておりますが批判等あるかと存じますが、ご容赦の上ご覧ください。

が違うため、一概には判断できない。」

「コロナ禍で神符守札のインターネット頒布や遠隔祈祷・参拝等を始めた神社もあると聞いている。現状各神社に対応を任せている状況であるが、神道の本義、また長期的な影響を考えて何が正しい姿のかは判断が非常に難しい。」

「他にも何か各神社が抱えている問題はあるのか。」

「最近、家を新築する際に（現地ではなく）神社で地鎮祭をして欲しいという依頼が増えている。現地の土地の砂を神社に持ち込んで、神社で神事、清祓を斎行するという形で対応した。」

「大地主大神を降神しない祭祀は地鎮祭とは言えないのではないか。それはあくまでも安全祈願祭にしかならない。」

「全くその通りであるが、既にそういう方式が一般化している地域もある。例えば隣の山口県の神社のホームページを何件か確認したが、それを『略式地鎮祭』として正式に案内している。」

「他県の神社では祈祷可能で、広島県の神社では対応できないというのは今後通用しない可能性が高い。」

「葬儀についても、簡略化を推奨している事業者があるが、どう対応して良いのか分からぬ。」

「『通夜祭、葬場祭、火葬祭、納骨祭をセットで〇〇万円（一日で全て終了）』というような宣伝をしている事業者もある。以前当社に依頼があつた時はお断りした。」



講習で習った事を次回の講習までに維持するために自主練習時間をいかに都合つけるかなど、時間との戦いが多かつたです。

また、今回は女性の受講者が多かつた事は大変励みになりました。近年、女性神職が増えてきているとはいえ、私自身、女性神職の作法や装束を目の当たりにするのは初めてでした。正確に言うと、ぼんぼりを使った作法を見せて頂いたことがありませんでした。

母が直階を受講した頃は女性も笏法のみの講義でした。他の受講生の方ともお話したのですが、女性神職も活躍されているのは知っていますが、女性神職の祭式作法を初めて拝見、体験する方がほとんどでした。男性と女性とで微妙に作法が違うのが、分かり難い所ではありました。女性の受講者が多かつたおかげで、男性・女性とグループに分かれて指導いただけたのは、混乱が少なくよかったです。

今はまだ雅とはかけ離れた作法かもしませんが、女性神職の雅な作

法も多くの方々に認知していただけるよう、努めていきたいと思います。
最後になりましたが、諸先生方や事務の方々も久方ぶりの広島での開催、そして初めての開催方式で骨を折られた事も多々あつたと思います。まつたく白紙の状態での受講生です。講師の先生に聞かれても何がわからぬのかも分からず返答できなかつた私たち。

そんな中、時間の調整や感染対策を行いながら、数々のご配慮をいただいた事、大変有難く、そのおかげもあり頑張ることができました。直階検定講習会を無事終えることができましたこと、深く感謝申し上げます。

あい助け合いながら頑張ってきた仲間たち。今からが本番。日々精進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

この検討 委員会編集報



家も増えている。また少子化により後継者がいなくなり、墓じまいを考えている高齢者も多い。」「それぞれ対応方法を検討しなければならないが、一度でも簡易化を許容してしまうとそれが定着してしまい取返しがつかなくなってしまう。特に葬儀については古来の日本人の死生観が強く影響しておられる電子マネーやクレジットカードを用いて納めるという形は今後増り容易に変えるべきではないと思う。」「他にも電子マネーの普及に伴い、初穂料や玉串料のキャッシュレス決済（電子マネーやクレジットカードを用いて納めるという形）は今後増えていくのか。」「既におみくじの初穂料を電子マネー（Paypay等）で納める（支払うこと）ができる神社がある」「贊否両論あると思うが、現時点では違和感があり受け入れ難い。特に神前にお供えする玉串料をキャッシュレス決済にするというのは感覚的に受け入れられない。また、法律上どのような扱いになるのか。それらは喜捨金として認められるのか。問題点も多く慎重に検討していかなければならない。」

「既におみくじの初穂料を電子マネー（Paypay等）で納める（支払うこと）ができる神社がある」「贊否両論あると思うが、現時点では違和感があり受け入れ難い。特に神前にお供えする玉串料をキャッシュレス決済にするというのは感覚的に受け入れられない。また、法律上どのような扱いになるのか。それらは喜捨金として認められるのか。問題点も多く慎重に検討していかなければならない。」

当会ではこれらの賛否両論ある諸問題について議論しないこと（目を瞑ること）を良しとするのではなく、一つ一つ議論して、特定の神社だけでなく神社界全体として理解することが大切であると考えております。現時点他にも多くの問題がテーマとして挙がっていますが、本記事に対しても皆様の反響がございましたら次回以降も是非掲載したいと考えております。

今後とも庁報に関しまして忌憚のない意見を賜りますよう会員一同重ねてお願い申し上げます。

家も増えている。また少子化により後継者がいなくなり、墓じまいを考えている高齢者も多い。」「それぞれ対応方法を検討しなければならないが、一度でも簡易化を許容してしまうとそれが定着してしまい取返しがつかなくなってしまう。特に葬儀については古来の日本人の死生観が強く影響しておられる電子マネーやクレジットカードを用いて納めるという形は今後増り容易に変えるべきではないと思う。」「他にも電子マネーの普及に伴い、初穂料や玉串料のキャッシュレス決済（電子マネーやクレジットカードを用いて納めるという形）は今後増えていくのか。」「既におみくじの初穂料を電子マネー（Paypay等）で納める（支払うこと）ができる神社がある」「贊否両論あると思うが、現時点では違和感があり受け入れ難い。特に神前にお供えする玉串料をキャッシュレス決済にするというのは感覚的に受け入れられない。また、法律上どのような扱いになるのか。それらは喜捨金として認められるのか。問題点も多く慎重に検討していかなければならない。」

第六十七回伊勢神宮新穀感謝祭

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で例年新穀感謝祭に参加している各支部は、二年続けて大勢での参宮団の募集を断念する状況である

中、去る十一月十九日に吉川庁長を始め五社の神職・総代・氏子・崇敬者、計七十四名が、第六十七回伊勢

神宮新穀感謝祭に参加した。

午前八時からの外宮御垣内参拝。続いて内宮御垣内参拝、神樂殿に於いて御神樂が奉納された。

十月に緊急事態宣言が解除され、おかげ横丁には多くの観光客が訪れ活気が戻っていたように感じた。

紅葉が美しい季節に参拝ができ、大御神の御神徳を戴き参加者は清々しい気持ちで帰路に着いた。来年は多くの参宮団で参拝が出来れば良いと思つた。



支部より

尾道御調支部 「神嘗祭と神宮大麻」

（梶山政孝 通信員）

（郡山龍 通信員）



な秋晴れのもと、支部の各神社から一名ずつ代表が参列いたしました。典儀を務める向東町の八幡神社の二五宮司が厳かに開始を告げ、幣原宮司に

より祭典が厳粛に執り行われました。祭典の後、豊岡支部長から増額布に向けての取り組み方をご教授いただきました。



ばれ、各種行事が中止となっている中での決定であり、また久しぶりの行列でもあつたため、期待感とそれ以上の緊張感があつたそうだ。

お囃子は、大太鼓一台のみの静かな行列は神社を出発し、お旅所でのお祭りと巫女舞を見に来られた方々から暖かい拍手を受け、行列に快く参加された氏子の方々、準備や後片付けをされた総代さん、木谷区の皆さんとの理解と協力を得て、令和三年度の重松神社の例祭を無事行うことができた。

（梶山政孝 通信員）



事務局だより



佐伯大竹支部

「一の鳥居くぐり初め式」



令和三年十一月一日、速谷神社一の鳥居（大鳥居）が五十年ぶりに建て替えられ、「くぐり初め式」が執り行われた。

新たな神社の「顔」となる一の

鳥居は高さ十・六メートル、幅十三・七メートル、鉄筋コンクリート造石材調仕上げ。旧鳥居の一・八倍の大きさで蘇った。

速谷神社（櫻井建弥宮司）は三年後の令和六年に創祀千八百年大

祭を斎行する。現在、大祭

に向けて社殿の修繕や境内整備等を進めており、一の鳥居再建も記念事業の一環。

当日は神職による清祓の後、櫻井宮司が「御神前に向かい、心を

整え、清々しく、新しい鳥居をくぐつて下さい」と挨拶。オープカットして鳥居完成を祝した後、氏子ら約百名が真新しい一の鳥居のくぐり初めをした。

（瀬戸一樹 通信員）



世羅町甲山に鎮座の大成龍神社を紹介します。この神社は世羅町出身で大妻女子大学を創立された大妻コタカ氏が建てた神社です。

当地久恵の氏神様であるこの神社は、明治の末期、国の施策により地域の八幡様

に合祀されました。

大妻コタカ氏は、昭和三年のある夜「俺は、お前の生まれた所

の氏神だよ、今お前の実家のフジの木に居て雨露をしのいでいる。居候は嫌だ、小さな祠でいいから創つてくれないか」とお告げを受け、早々に郷里の世羅町に帰り元の場所に土地の荒神様と共に小さな祠を御建てし、御神体の石を移しました。（大妻コタカの著書「ごもくめし」より）

また本殿の横の壁には三匹の龍が描かれています。この「雨龍水天戯画」は橘ナオキ氏の作で、戯れる三匹の雨龍たちは、最も若い時期の龍の呼び名です）は、天候を左右すると言われる一方で、徳を積み、より靈格の高い龍へと成長していく期待を込め、「出世神」としても親しまれています。

（斎花慎一 通信員）

世羅支部

「世羅のパワースポット」

